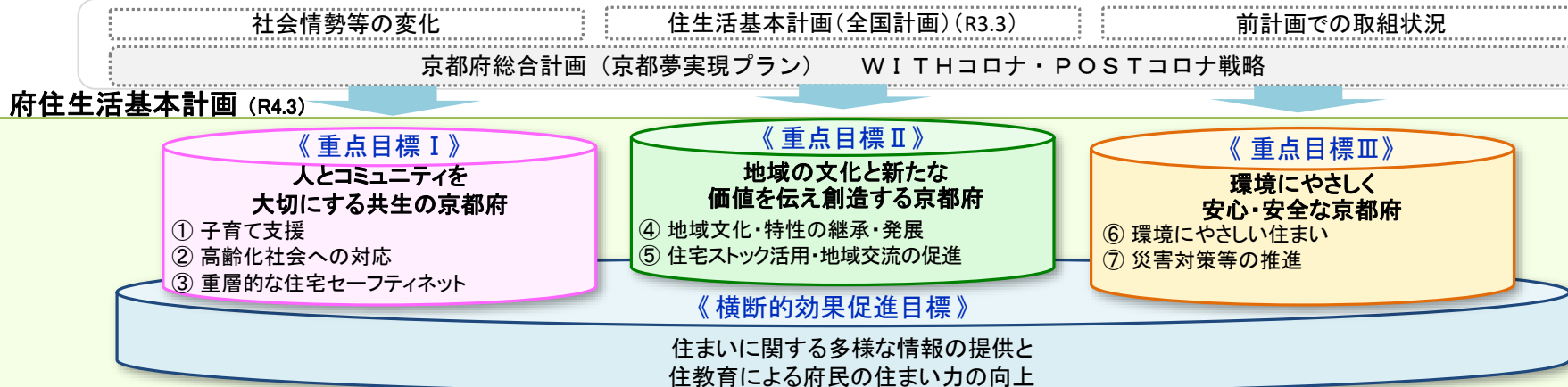


京都府住生活基本計画の見直しの方向性（論点）について

《現行計画の位置づけ・方針・目標》



《上位計画の見直し等》

住生活基本計画（全国計画）（R8.3予定）
2050年の住生活の姿を見据え、当面10年間に
取り組む施策の方向性を議論

【住まうヒト】人口・世帯構成の推移、少子化、高齢者
も含めた単身世帯の増加（孤立化）、多様な住まい方

【住まうモノ】空家の増加、既存ストックの魅力向上や
有効活用・更新、脱炭素社会推進、防災・減災対策

【住まいを支えるプレイヤー】公営・民間住宅の役割
分担、住生活を支える担い手の活動支援

京都府総合計画（R5.12）
「あたたかい京都づくり」に向けた3つの視点と
8つのビジョン

【安心】災害・犯罪等からの安心安全の実現

【温もり】子育て環境日本一・京都の実現、共生による
環境先進地・京都の実現

【ゆめ実現】交流と連携による活力ある京都の実現

※住宅政策に特に関わりが強いもの、大きいもの

社会経済状況・ニーズの変化

単身世帯増加等の世帯構成の変化

自然災害の頻発・激甚化、カーボンニュートラル

公営住宅等の住民の高齢化・子育て世代の減少、
コミュニティ活力の低下

市町村等との適切な連携と役割分担

民間活力の活用の促進

《論点》

- 人口・世帯構成の変化を踏まえた住宅政策 : 子育て世帯や高齢者等の住宅確保要配慮者の住まいの安定確保に向けた住宅政策
- 既存ストックの有効活用 : 空き家対策（市町村主体）や住宅性能向上への府の取組
- 安心安全の確保 : 災害対応時の情報提供やエリア単位での安全対策
- 住生活の担い手（居住支援法人等）の活動促進 : 福祉施策との連携強化や不動産事業者、福祉関係者等との連携促進

上記論点及び上位計画の見直し等を踏まえ、京都府住宅審議会において「今後10年の住宅政策のあり方」を検討
→ 「あたたかい京都づくり」の実現へ